

よりよいIMS審査のあり方をお客さまとともに考えました

IMS(統合マネジメントシステム)審査情報交換会を東京・大阪で開催



8月27日に東京で、つづいて29日に大阪で、IMS(統合マネジメントシステム)審査情報交換会を開催しました。参加いただいたのは、統合マネジメントシステムを導入しIMS審査を受審した企業、および統合マネジメントシステムの導入を検討している企業の方々と、東京19社30名、大阪15社23名の計34社53名。このIMS審査情報交換会は今年で4回目となり、回を追うごとに参加企業は増えています。このため、今年は2都市での開催となりました。

両日とも、まずIMSに取り組んでいる企業3社からのプレゼンテーションがあり、各社の取り組みの詳細、目的や成果、取り組みに向かった経緯、さらに今後の構想などが発表されました。それぞれ特徴は違いますが、どの企業においても経営のためのマネジメントシステムとしてしっかりと活用されており、経営とマネジメントシステムの一体化が図られていることを実感することができました。IMSに取り組んでいる企業からは、特に

内部監査に関して多くの質問が寄せられましたが、JQAから「単に品質や環境として監査するのではなく、業務のどこに問題があるかを監査することが重要」という見解を述べました。つづいて、JQAがIMS審査報告書における審査所見についてレビュー。改善の機会の特徴や運用証明書発行保留の事例を交えながら、過去の審査の状況について解説していききました。その後、議事は発表企業とJQAによるパネルディスカッションへ。発表企業だけではなく参加企業からも質問や意見交換が活発に行われ、充実した情報交換会となりました。

このIMS審査情報交換会は、IMSに取り組む組織、あるいはこれから取り組んでいこうと考える組織をバックアップしていくことがひとつの目的です。同時にJQAでは、皆さまの生の声を聞き、ともにディスカッションを重ねていくチャンスととらえています。それによってよりよい審査のあり方を探り、組織のニーズにしっかりと合致したIMS審査サービスを提供していくために役立てています。私たちが提供していく審査サービスについても、PDCAサイクルを効率よく回し、常に改善に努めていきたい。JQAはそう考えています。



IMS(統合マネジメントシステム)

経営にISO9001、ISO14001、ISO27001などの複数のマネジメントシステムを導入する組織が増加するにともない、経営資源を効率よく集中させるためのシステム構築、内部監査やマネジメントレビューの煩雑さ解消へのニーズも高まってきました。そうしたニーズに応えていくためにJQAが開発したものが、IMS(統合マネジメントシステム)審査サービスです。組織

が複数のマネジメントシステム規格をひとつのマネジメントシステムとして統合し、有効に活用しているかを審査します。2005年から提供をはじめ、2008年8月末現在、34社を審査し、証明書を発行しています。対象となる規格はISO9001、ISO14001、ISO27001、OHSAS18001。このうちISO9001は必ず含まれている必要があります。

各社のプレゼンテーションから (発表順)

東京会場

富士フイルム九州株式会社
前社長 山口光男 様

規格ありきで考えたのではなく、日常業務をIMS化するという姿勢で取り組んだため負荷はあまりありません。しかし、内部監査に関しては、目的・目標に向かってどう取り組んでいるのかという視点をもっと大切にしていこうと考えています。

ニチエー吉田株式会社
ISO推進室 室長 河原崎広 様

IMSを取り入れることで全社の意志統一、無駄のないシステムの構築、改善に対する意識の高まりなどの成果がありました。しかし、パフォーマンスの向上や品質・環境の相互関連に対する意識の向上などには課題が残っています。

東芝テック株式会社
環境・品質保証統括部 主務 高橋育之 様

規格ごとに目標や運用システムが異なっていたため、業務のスリム化・全体の最適化を図るためにIMSを導入しました。教育や内部監査員の養成、規定の統合、データベースの一本化などを進めています。今後は、ISO27001もIMSに含め全体最適を追求したいと考えています。

大阪会場

株式会社ユー・エム・アイ
品質保証部 部長 松田茂 様

ISO14001を取得する際に、すでに取得していたISO9001を基本とし環境に特有の部分を追加して構築したため、統合は比較的容易でした。また、IMSへの移行は文書のスリム化および経営効率の向上に役立っており、今後さらにハイレベルのIMSを目指して取り組みたいと思います。

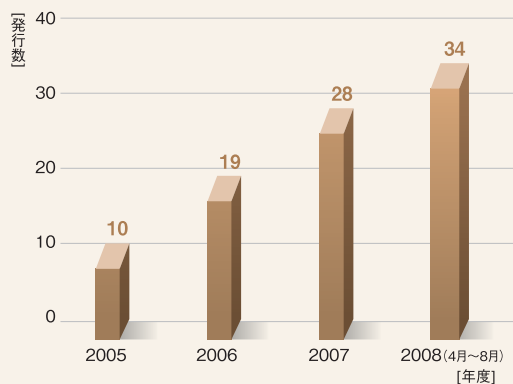
TOTOウォシュレットテクノ株式会社
品質保証グループ 小峰幸弘 様

統合することで現場は取り組みやすくなりましたが、事務局の負荷は増え、内部監査員によりいっそうの力量が求められるようになりました。統合化するにあたっては、無駄は必ず排除するという意識をもって実行すべきだと思います。

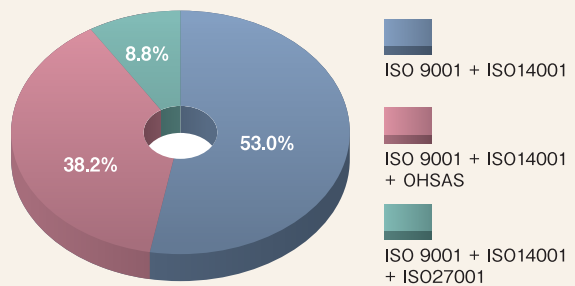
株式会社堀場エステック
IMS推進室 室長 高木正範 様

IMS構築には、経営者の強い意志がありました。3規格の相互両立性、CSRへの活用を目的に導入しました。目標管理はIMSの趣旨に沿っていましたが、運用面の一部にはIMSを実施するための活動も見られたため、今後改善していきたいと考えています。

IMS運用証明書発行数 (累計)



統合対象規格別内訳



お問い合わせ先

財団法人 日本品質保証機構
マネジメントシステム部門 推進センター 推進企画課 川上

TEL:03-6212-9500